

尼崎市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 関西を代表する産業都市(工都)の後背地として、繁栄。
- 沿岸部の工場の撤退に伴い、阪神間の中核都市としての業務機能が低下。
- 周辺地域に相次いで大規模店舗が進出。中心市街地内の核店舗が撤退し、商業機能も大幅に低下。
- 平成21年春の阪神西大阪線延伸により、兵庫県～愛知県まで私鉄4社で一本につながり、交通結節点として活性化機運が高まりつつある。



○小売販売額

H8: 598億円 → H18: 249億円 (△58%)

○サービス等事業所数

H13: 1,342件 → H18: 1,112件 (△17%)

○休日の歩行者通行量

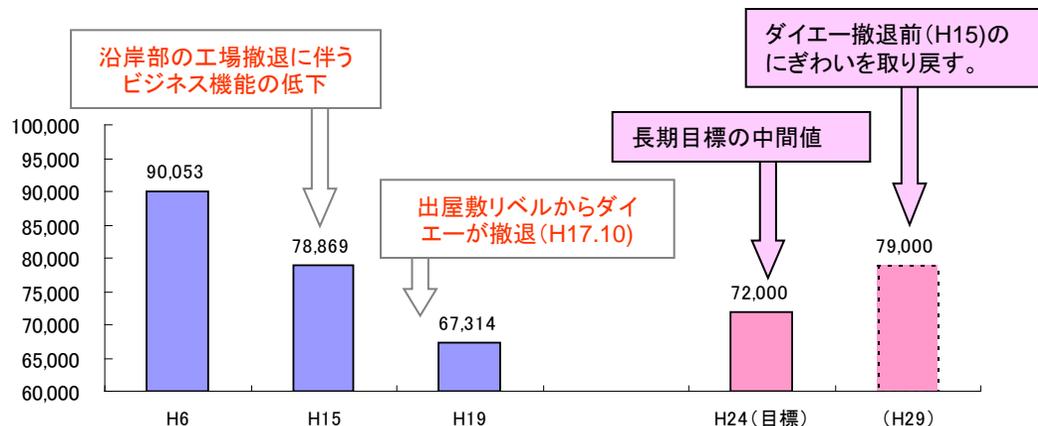
H15: 78,869人 → H19: 67,314人 (△15%)

【目標】

目標	指標	現況値	目標値 (H24)
商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成	小売業年間販売額	249億円 (H18)	270億円
「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成	サービス業等事業所数	1,112件 (H18)	1,200件
地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成	休日の歩行者通行量	67,314人 (H19)	72,000人

(歩行者・自転車通行量の動向と数値目標)

* 休日、7・8月に定点調査



関西を代表する産業都市・尼崎の核として、人情味あふれる商店街の良さを残しながら、商業施設のリニューアルや事業所の積極的な誘致等を図ることにより、人・物・情報が集積し、賑わいあふれる中心市街地の再生をめざす。

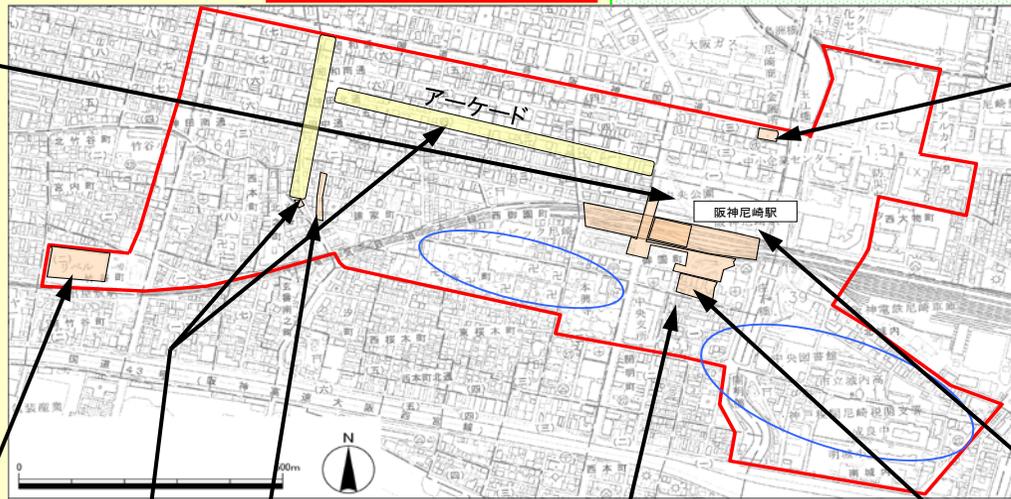
尼崎市中心市街地活性化基本計画の事業概要

商業の活性化の推進

中心市街地区域：約83ha



○駅前デパート
リニューアル事業
まちの玄関口にある
ショッピングセンターを大幅
改装。駅前広場整備
とあわせ高機能化。



○出屋敷駅前ビルテナント誘致
H17のダイエー撤退により大
規模な空床が発生しているビ
ルの1階に、食品スーパーを誘致。
また、地階や3階部分への核
テナントの誘致を継続実施。



○食品市場の建替え事業
全長500mの市場を1棟
(200m)に集約し、専属栄養士
の献立指導やどんぶり市場(丼を
片手に刺身等の好みの具材を注
文し、オリジナル丼が味わえる)を
常設。



○阪神尼崎駅機能強化
阪神西大阪線延伸(2010年)
に合わせ、尼崎駅ホームの
新設・延伸、駅前広場内の歩
道整備等を行い交通結節点
機能を強化

○商店街の魅力強化
とうふケーキや調味料セット等、
尼崎を代表する逸品であると認
証された商品(メイドインアマガ
サキ)の販売や空き店舗を活用
したキッズスペースの運営



産業基盤の強化



○地域経済交流センター
商工会議所の建替えにあわせ
て整備。セミナー開催や交流
会など既存の中小企業の事業
拡大の支援体制を構築。

○「創業塾」事業戦略構築、資金調達の指導等に
より、創業・起業を志す人材の支援を実施。

地域資源を活かした賑わい再生

○地域イベントの拡充
阪神タイガースのパブリック
ビューイングやオープンカ
フェ、交流スペースの設置、
大規模なテナントミックス等



○ボランティア・ガイドの活用
寺町等の歴史的・文化資源の案内を実施。



○高齢者対応住
宅や看護ステ
ーション、診療所等、
医療・福祉が一
体となった住宅
を供給。



○産業観光の強化
工場群等を巡る産業
観光ツアーの定員増
や、中心商店街を通
るコースへの変更。

